

愛知県共済生活協同組合等の連携による都市農村交流活動の推進

< 岐阜県 >

| | |
|-----------------------|--|
| 1. 市町村・集落の名称 | 東白川村 |
| 2. 協働の相手(企業や大学等)の名称 | 愛知県共済生活協同組合 (株)奥様ジャーナル(フリーペーパー編集会社) 名古屋学芸大学 |
| 3. 仲介者・コーディネーターの名称 | (株)ふるさと企画(東白川村里山アカデミー事務局) |
| 4. 協働のポイント | 日頃から情報収集に努め、グリーン・ツーリズムの取り組みに理解のある企業等へ積極的に働きかけを行ったこと。 村内の関係組織等が連携を図り、多彩なメニューを提供できる体制整備を進めたことで、協働先に対し魅力的な企画を提案できたこと。 |
| 5. 協働のきっかけ・経緯 | 東白川村の第三セクター(株)ふるさと企画が、所有する交流・体験施設の利用者増と安定した顧客の確保を図るため行ってきた営業活動がきっかけ。 平成 3年：交流・体験施設「こもれび館」完成。陶芸、炭焼体験等の体験メニューの提供を開始。 平成12年：愛知県共済生活協同組合、(株)奥様ジャーナルに対し、村を体験する協働企画を提案。体験者の募集を企業が、メニューの企画・提供を(株)ふるさと企画が行う協働活動開始 平成17年：村のグリーン・ツーリズム推進方針決定。(株)ふるさと企画、村内の農家、森林組合や村などが連携し、「里山アカデミー」設立。顧客の幅広い要望に対応できる体制づくり開始。 平成20年：新たに名古屋学芸大学を協働先に追加。年2回、同大学のオープンカレッジの講座を村で開催。 |
| 6. 取組の具体的な内容 | ジョン・ギヤスライト(里山アカデミー学長)指導によるツリークライミング、鮎釣りアカデミー、お茶摘み、栗拾い、野菜収穫、花餅門松作り、森林散策など、年間を通して体験メニューを提供。 |
| 7. 農村地域への効果 | 間接的な効果として、道の駅や直売所等の来客数増加、売上向上 |
| 8. 都市部の主体(企業や大学等)への効果 | ・企業：顧客の確保と、利益向上効果 ・大学：学生ニーズにあった講座の開講 |
| 9. 仲介者等の役割 | ・協働の相手先との交渉・調整全般 協働の相手先に関する情報収集、営業活動、年間計画立案のため相手先との調整を実施 ・村内各団体のとりまとめ |
| 10. 今後の課題 | 活動の継続(提供メニュー内容の見直し、交流施設の維持修繕が必要)、効率の良い集客システムの構築、緊急時体制の整備が課題。 |

（活動状況写真等）



ともろこし収穫体験（2006.8.3）



「ジョンさんと遊ぼう」ツリークライミング体験（2007.10.6）



お茶摘み体験（2008.6.26）